

電子政府評価委員会（平成21年度 第1回）

1. 開催日時：平成21年8月6日（木）16：30～18：09
2. 場 所：永田町合同庁舎1階第1会議室
3. 出席構成員
天野構成員、井堀構成員、大谷構成員、大山構成員、小尾構成員、須藤構成員（座長）、廣川構成員、村上構成員、柳田構成員

（議事次第）

1. 開会
2. 平成21年度第1回評価専門調査会の報告について
3. 電子政府評価委員会の運営について
4. 電子政府の取組について
5. ワーキンググループの設置について
6. 今年度の進め方について
7. 閉会

[資料]

- 資料1-1：評価専門調査会について
 - 資料1-2：電子政府評価委員会について
 - 資料1-3：評価専門調査会 2009年度活動方針（第1回評価専門調査会資料）
 - 資料2：電子政府評価委員会の運営について（案）
 - 資料3-1：i-Japan戦略2015（概要）
 - 資料3-2：i-Japan戦略2015
 - 資料4-1：社会保険オンラインシステム最適化評価ワーキンググループの設置について
 - 資料4-2：オンライン申請等手続システム評価ワーキンググループの設置について（案）
 - 資料5：2009年度電子政府評価委員会スケジュール（案）
- 参考資料1：電子政府評価委員会 平成20年度報告書（抄）

(会議概要)

1. 開会

事務局より、電子政府評価委員会の構成員の紹介等が行われた。

2. 平成21年度第1回評価専門調査会の報告について

資料1に基づき、須藤座長より、平成21年度第1回評価専門調査会の活動方針等について説明が行われた。

3. 電子政府評価委員会の運営について

資料2に基づき、事務局より、「電子政府評価委員会の運営について(案)」について説明が行われ、本案のとおり決定された。

須藤座長より、座長代理として天野構成員の指名があった。

4. 電子政府の取組について

資料3に基づき、事務局より、「i-Japan戦略2015」について説明が行われた。これについて構成員より以下の発言があった。

○ 基本的な問題として、IT新改革戦略が行われている間に次のi-Japan戦略が進むということについて、世界中で行われる電子政府の会議に出席し議論すると、2つの戦略がなぜ同時に進行するのかという意見が当然起きてくる。

また、政府CIOについて、非常に重要で期待しているが、どこに設置され、それは専任なのか、アメリカの大統領府のCIOと同格の発想なのか、あるいは全く別なものなのかについて説明して頂きたい。

また、将来ビジョン・目標の中に、テレビで行政サービスを提供するという行政窓口改革が挙げられているが、どのような形を考えているのかについて、説明を補足して頂きたい。

○内閣参事官 最初の点については、今回の戦略に重点化したと言っていたきたい。「新改革戦略」のフォローアップは行うが、新しい戦略に重点化をして切りかえていくつもりである。

2点目については、政府の効率化と行政サービスの向上に向けて、行政改革と電子政府を一体的に行う強力な権限を持つ政府CIOを内閣官房につくるべきであるというのが結論である。ただし、具体的にどうするかについては、今後の検討課題である。

3点目については、端末の種類を問わない形にもっていくというのが理想型であるが、どこまでできるかについては今後検討していく予定である。

○ 内閣官房における政府CIOは、行政改革という側面も半分持っていると考えてよいか。

○内閣参事官 電子政府を進めるためには、先にBPRをしないと意味がないということ、産業界からも非常に厳しく言われているところである。行政改革と切り離れた形での電子政府というのではないだろうというのが我々の結論である。

○ 他の組織で行っている行政改革の動きとの合体まで考えているのですか。

○内閣参事官 具体論については今後検討していくが、何らかの形でのリンケージは必要と考えている。

○ i - J a p a n 戦略2015に書かれている3ページ以降の内容は、必須要件なのか。概念としてそういう言葉が出ただけなのか。何をこの委員会で評価するのかについて、前提として、この資料に書かれている内容に基づいた評価をするのかどうかということを確認したい。

○内閣参事官 評価専門調査会も含め、この電子政府評価委員会の射程は、まず i - J a p a n 戦略2015を前提として評価して頂くというのが基本的な考え方である。

○須藤座長 i - J a p a n 戦略2015を政府がどのように推進しているのか、適切に進めているかどうかについて、評価委員会で指標を作ってチェックを行い、遂行状況の見える化をする。問題点があれば、政府に対して指摘を行うとともに、今の取組みでは不十分なので、こういう改善をすべきではないかと提案するだけの権限は持っている。

○ 国民電子私書箱など、個別の項目について提案されたものについては、提案内容の前提となる条件や費用対効果が出されていると考えてよいか。

○内閣参事官 資料3-2の25ページの一番下にあるとおり、中長期的な観点から本戦略を推進するため、PDCAのサイクルを確実に回すための体制を堅持し、評価機能の充実を図るということで、引き続き評価専門調査会及び本電子政府評価委員会を設置し、政府の取組状況の評価を行っていくというのが基本的な枠組みである。

国民電子私書箱については、実現に向けた課題、費用対効果等の検証を整理し、基本構想として取りまとめ、IT戦略本部において決定するということが示されているので、その中でご指摘の費用対効果等の検証等も行われると思われる。

○内閣参事官 i - J a p a n 戦略2015の議論の過程の中で、引越や退職等の手続にかかっていたコストの削減効果や、社会保障分野等で行政からの通知を省略することによるコスト削減効果など、大まかな試算は行っている。今年度は、さらに精緻化をして、どのようにすれば、投資がコスト削減効果に見合ったものになるかを考えていくということである。

○ i - J a p a n 戦略2015に書かれている電子政府というのは、自治体も含まれていると考えてよいか。霞が関だけではなく、国民のところまで含めた戦略と考えてよいか。

○内閣参事官 電子政府・電子自治体と言っているように、行政サービスには政府のサービスもあれば自治体のサービスもあり、基本的には両者を含めて電子化され、利便性の高いサービスが提供されることが望ましいと考えており、その点では、自治体も含んだ形で実現していきたい。

○ 評価をするためには、より高次の目的を実現するための手段としてそれが適切かどうか、各省庁・各自治体の部分最適ではなく全体最適の観点から見直す必要がある。より高次の目的と、それを実現するためのより細分化された具体的な目標を示す体系図的なものが必要であり、それに照らして評価をするという視点を失わないことが大切と思われる。それを見える化して、整理していただきたい。

○須藤座長 その通りだと思われる。

○内閣参事官 目的体系図については、昨年の評価でも採用した手法であり、次回以降の会合において目的体系図の案を提示し、ご議論を頂戴したい。

○ 資料3-2の5ページの「行政窓口改革」の(2)で書かれている、自宅やコンビニ等において24時間必要な証明書等が手に入るようにするという点については、紙をベースに考えているのではないかという気がする。

○内閣参事官 同じ5ページの「行政オフィス改革」の(1)において、データ連携によってペーパーレス化をすることであり、行政の中では紙をなくすというのが方向性である。ただし、いろいろな民間等の手続において紙を要求される場合もあるため、その時にはわざわざ窓口に行かなくても、自宅のパソコン等から必要な証明書が手に入るようにするという意味であり、行政の内部で今までと同様に紙をやりとりするということの意味しているのではないということをご理解頂きたい。

○ 資料3-2の26ページの(2)において、規制制度慣行等の重点点検を別の組織で実施するとされているが、電子政府の推進とオーバーラップするところもあるように思われるため、本評価委員会との関係を教えて頂きたい。

○内閣参事官 重点点検については、現在パブリックコメントをかけている最中であるが、今後、評価専門調査会と重点点検専門調査会で、それぞれの進捗状況を報告するような形にするなど、適宜調整していきたい。

○ 電子政府と電子自治体の区別をどう考えるのか。本評価委員会に電子自治体について議論できる権限があるのか。今、地方分権や道州制などがいわれていることを考えると、電子政府と電子自治体は別個のものだと判断すべきなのか、別個ではあるが連携してうまくやっっていこうということなのか、基本理念をはっきりしておかないと、電子政府といいつながら電子自治体の話をしている可能性もある。

○須藤座長 3年前からその議論もされていたが、行政サービスのうち国民のニーズの多いものを対象に考えていくと、基礎的な自治体の仕事が一番多くなるため、電子政府を最適化するためには自治体との連携が必要になる。政府が所管できる領域は、あくまで政府のレベルに止まっており、評価もそこを中心とせざるを得ない。ただ、連携はしていくという視点を、常に評価の基本的な視点として持つとともに、各自治体との情報共有も重視している。i-Japan戦略2015の中でも、できるだけ自治体の意向を反映すると書かれていたと思う。

○ 自治体の現場にいる者としては、電子政府と電子自治体の区別には抵抗感がある。

国民から見ると、例えば出産し、子供を育て、保育園に預けるといったいろいろな過程の中で、国のサービス、地方自治体のサービス、民間のサービスが入り交じっている。今までは、業務や組織が縦割りになっていたからこそ、その点を改善して繋がらない壁を繋ごうということが本質にある。例えば、社会保険事務所と基礎自治体間のデータのやりとりや、税務署、法務局とのやりとりなどが紙で行われているという矛盾もある。従って、議論をする際に、電子政府という枠組みをすることは問題があり、地方自治体や、場合によっては民間のサービスとも一体化しなければ、バラバラになってしまう。

○ 法的にも財政的にも、電子政府と電子自治体が一体化できる範囲は限られている。電子政府と電子自治体は一体化するという法律ができればよいが、それが無い以上、自治体が国に代わって行う業務はたくさんあるが、それを電子政府とは呼ばないのではないか。

○ 例えば児童手当をもらうために、児童手当の現況届けを出す必要があるなど、国の法律で定められた諸手続がある。それを実際に行っているのは市町村の窓口である。しかし、本当にこのような届出が必要なのかといった議論は、自治体と国とが一緒になって新しいやり方を考えていかなければならない。

○ 須藤座長 時間が限られているため、改めて評価作業を通じてご議論いただきたい。電子政府と電子自治体は分権的で異なるものではあるが、協力し合わなければ何もできないので、電子政府・電子自治体という枠組みで、これまで以上に協力関係を密にすることを目指すものをご理解いただきたい。

5. ワーキンググループの設置について

資料4-1に基づき、「社会保険オンラインシステム最適化評価ワーキンググループ」の構成員の変更について、事務局より説明が行われた。

資料4-2に基づき、「オンライン申請等手続システム評価ワーキンググループ」を新設することについて須藤座長より説明があり、本案のとおり決定された。

6. 今年度の進め方について

資料5に基づき、電子政府評価委員会の今年度の進め方について、須藤座長より説明が行われた。これについて構成員より以下の発言があった。

○ 今年度も、電子政府・電子自治体関係の実証実験が予定されていると思うが、昨年度の電子政府評価委員会でも、引越ワンストップの実証実験について、できる限り実証実験を始める前にこの場でご報告をいただきたい旨を申し上げたが、遅れ遅れになって、その成果についても報告がない。そういうことのないように、規模の大きいものに関してはできる限り事前にこの場でヒアリングするように、スケジュールリングをお願いしたい。

○ 須藤座長 個人的には賛成する。なお、昨年度の実証実験の結果については、評価をするための報告書の策定段階であると伺っているので、それが完成した段階で、本評価委員

会でも報告を願いたいと考えている。

○ スケジュール表に書かれているアンケート調査というのは、これまでの報告書を拝見すると定期的に同じ項目について実施されているようであるが、今年度も同じような形態で行われることが既に決定しているのか。というのは、電子政府・電子自治体の利用者層について、行政自体が実際の利用者であるというケースも非常に多いと思われるため、その際に行政の意見についても吸い上げる場があるのかについて関心を持ったためである。

○内閣参事官 アンケートについては、基本的には継続して行っているものであるが、昨年度も、アンケート調査票の案を作った段階で本委員会に報告しており、今年度もご意見を伺いながら進めていきたい。

○須藤座長 電子政府のアウトカムとして、行政官にとっても利便性が高まって、例えば政策立案能力の向上に貢献し、生産性がアップするなどといった視点は必要である。

○ i - J a p a n 戦略2015の大きな柱である国民目線について具体的に考えると、これはヨーロッパでいう国民参加、民間の英知を結集して考えるということではないか。場合によっては、民間の人を集めて公聴会を行うようなこともあり得るのか。

○須藤座長 i - J a p a n 戦略2015でもinclusionと言っており、その観点は打ち出す必要がある。ただし、どのように作業工程に入れるかは、十分検討が必要である。アメリカでは公聴会が極めて重要な役割を担っているが、日本とは政治体制も異なるし、またEUの電子政府戦略では、民主主義の強化というのがアウトカム目標としてはっきり入っているが、我々がそれを入れられるかどうかは、もう少し議論をした上で固めていく必要がある。

○内閣参事官 非常に重要なご指摘だと思うが、評価専門調査会全体の在り方にかかわってくるので、そちらの方で検討する方向としたい。

7. 閉会

○須藤座長 次回日程の詳細については別途事務局から御連絡をさせていただきます。

以上